

平成21年度 第2回三次市地域公共交通会議 会議録

平成21年8月28日(金)  
14時00分～15時40分  
三次市文化会館 第3会議室

開会

(事務局)

平成21年度第2回三次市地域公共交通会議をご案内しましたところ、委員の皆さまには大変、お暑い中、そしてご多忙の中、ご出席を賜り、感謝申し上げます。

それでは、ただいまから、「平成21年度第2回三次市地域公共交通会議」を開催いたします。  
会長であります増田副市長のごあいさつをお願いします。

会長あいさつ

開会にあたりまして、一言ごあいさつをさせていただきます。第2回の三次市地域公共交通会議をご案内しましたところ、委員の皆様には大変お忙しい中、ご出席いただきましたこと厚く御礼申し上げます。

また本日は、アドバイザー的な立場でJR西日本広島支社から企画課長代理様及び中国バスから営業課長様にご出席いただいております。どうもありがとうございます。

本日は、報告事項1件と協議事項を3件の協議をお願いしたいと思います。

特に協議事項で4月6日から実証的な運行を行っています「甲奴・三次線」について、一部見直しをかけて、さらに半年間の実証運行を行いたい旨、提案させていただいており、このことについて、委員の皆様のご意見を頂戴したいと思っております。

2点目として、三次市地域公共交通総合連携計画策定調査委託業務についてであります。合併後すでに5年が経過し、市民バスやデマンド交通を中心に自ら移動手段を持たない市民の方の地域交通に寄与してきたわけでありましたが、これは、合併前の状況をそのまま引き続いてきたわけでありましたが、今回、国の支援を受けて、新たな使いやすく効率的な地域交通体系を検討していこうと考えています。

限られた財源ではありますが、住み慣れた地域で安心して生活できるようにと市の大きな施策のひとつになるかと思っておりますので、市行政としても全力を投じていきたいと考えております。

それでは、事務局より説明をお願いします。

連絡事項

(事務局)

それでは、会議に入らせていただきますがその前に何点かご連絡いたします。

広島県の交通対策室長は別件公務のため代理出席となります。

さらに、本日の会議に別件公務で出席できないとの連絡が、三次商工会議所総務課長及び三次広域

商工会事務局長からありました。

また、本日の会議の進め方ではありますが、1の報告事項並びに2の協議事項の(1)「甲奴・三次線」公共交通導入試験運行については、事務局よりご説明いたしますが、(2)三次市地域公共交通総合連携計画策定委託調査業務の一部につきましては、事務局補佐として出席しています株式会社地域未来研究所からご説明いたしますので、ご了解くださいますようお願いいたします。

この本会議は原則公開としておりますので、報道関係者の傍聴、また、会議資料及び質疑応答などの会議録については、市のHP上で公開する予定になっています。

要綱7条定めにより、会長が議長となりますので、これからの議事進行については、会長でお願いいたします。

議事

(会長)

委員の皆さま方には、貴重なお時間を頂戴しておりますので、本日の会議は概ね1時間30分程度としたいと思います。建設的かつ積極的な意見を頂戴したいと思います。

それでは、報告事項「三次市地域公共交通総合連携計画策定調査委託業務の業者選定結果について」を事務局より説明願います。

(事務局)

前回の交通会議において、委託方法、そして、指名事業者、その選定要領及び評価方法をご了承いただきました。

これを受けて、去る6月26日(金)に、5社からの企画提案書及び見積額等による説明を受け、先ほども紹介しましたが、株式会社地域未来研究所 中国四国事務所を選定し、会長に報告、契約に至っております。

契約額は6,800千円であります。

この事業者の選定理由としては、同様な業務実績があること、また、提案内容が優れていたことに併せて、この業務への意欲がとても感じられたことがあげられます。

選定に当たっては、幹事会委員、全員の合意でありました。

報告事項は以上であります。

(会長)

はい。ありがとうございました。

このことについて、委員の皆さまから何かございますか。

(委員)

なし。

(会長)

はい。それでは協議事項(1)の「甲奴・三次線」公共交通導入試験運行について 事務局から説明

願います。

(事務局)

それでは、ご説明させていただきます。

ご承知のとおり本路線は、4月6日(月)から試験運行を開始していますが、先日も新聞報道にございましたように利用が低調な状況であります。

お手元に「別紙資料1」として「4ヶ月間の実績」をまとめたものを配付いたしてありますが、4月の平均乗車密度が0.84、5月が0.79、6月が0.89、7月が0.73、4ヶ月間のトータルが0.81となっています。新聞報道と一部数値が違いますが、これは、乗車運賃の計上に誤りがあったことが先日判明しました。報道数値よりごく僅かではありますが、4月と6月の数値が上がりました。

運行継続基準を平均乗車密度2.0人以上としていますので、半数に満たない結果となってしまいました。

ただ、資料の下に「参考数値」として掲載していますが、第1種、第2種の路線、及び市内巡回便の「三次ウェブ号」を除いた39路線の平均乗車密度が1.40人、その中で2.0人以上を満たしている路線が39路線中、11路線、「甲奴・三次線」同様の0.8以下の路線が15路線あります。

さらに、平成20年度末に廃止等となった芸陽バスの東三次線、中国バスの甲山・上下駅前線を除きますと、その次の表のような数値となります。この間の実績を検証してみますと、登校時間に合わせたダイヤを設定し、当初利用者として期待していた高校生が運賃の高いことから利用していただけなかったこと。

また、高齢者等の通院についても、現在の中央病院等の診療体制の状況から、少し時間的に早い便となったこと。これは、先ほどお話ししました通学の絡みもあってこのようなダイヤ編成になっています。新聞報道や支所だよりで利用状況をお知らせしたり、甲奴支所を中心に無線放送、支所だより、老人会・民生児童委員会などや地域の集まりなどへ出かけて、利用を呼びかけていますが、思うような結果は得られませんでした。

いずれにしても、当初予定していた利用者を取り込めなかったことが大きな要因であります。

続きまして、今後の方針であります。先ほど説明しました状況のもと、中国バスと市が協議し、利用者及び甲奴町においては、地域の方にアンケート調査を実施しております。このアンケートの結果は次にお示ししているとおりであります。

内容としましては、利用された方は、引き続き運行してほしいと強く望まれております。そして、運賃が高い。これはJR運賃との比較だと想定されます。そして、ダイヤの変更。三良坂商店街を運行して欲しい。といったような意見がありました。

この結果や先ほど説明しました「別紙資料1」の数値から三次市の見解としては、午前便については、ダイヤ変更の要望があるにもかかわらず、平均乗車密度が1.0を超えており、ニーズへの対応及びPR次第では、利用が増えることが予測されます。

また、これから冬に向けて、日が短くなること、そして積雪や道路の状況次第では、利用需要があるのではないかと考えます。今回の見直しは、アンケートのニーズ等を踏まえて10月1日(木)から一部の経路及时刻を変更して引き続き、試験運行を行いたいと思っています。

その変更の要因及び内容につきましては、5ページに記載していますもの及び「別紙資料2」として

「JR福塩線」,「甲山・三次線」,そして「甲奴・三次線」の変更前・後を見ていただきながら,ご説明いたします。

通学利用が見込めないこと及び始発便が早いとの意見から,現行の7時15分発から7時50分発に変更し朝時間に余裕を持たせています。

次に三次駅発12時を中央病院等の診察終了時間とあわせることで30分繰り下げしています。これについては,利用者の声ということで,乗務員(運転手)の方からアドバイスをいただいております。

また,甲奴駅前発14:30分を14:00に変更,少しでも早い時間に三次への配慮から,物理的に可能な時間で設定し直しています。夕方の三次駅発便については,意見のありましたことを参考に,「JR福塩線」の16時37分発及び18時38分の間に,さらには既存路線の「甲山・三次線」と調整するかたちで,19時10分発を約2時間早め,17時15分発に変更いたしました。

三次市街地から仕事や他の用務を終えられた方が,各種交通手段にて補完しあった時刻を選択できることになり,より利便性が向上されるものと考えております。

続きまして「変更運賃」についてであります, **別紙資料3**のとおりであります,本日,株中国バスから毛村様においでいただいておりますので,後ほど詳しくご説明願えればと思います。

経路につきましては,吉舎町域及び三良坂町域では,現在のバイパス運行から旧道を運行し,利用につなげたいと考えています。吉舎・三良坂域を旧道に変更しても運行距離は片道34.0kmで変更前の33.5kmより500m長くなる程度であり,利用者の乗車時間はほとんど変わりません。

停留所については, **別紙資料4**のとおりです。

また,路線の変更を行いますので本日お配りしました **別紙資料4-1**のとおり,吉舎町域の3.9km及び三良坂町域の3.0km,オレンジ色の実線で表示している現行の路線については,休止となります。

下の表にこの変更提案については「PDCAサイクル」と照らし合わせて,一定の改善を行い,もう半年間試験運行させていただきたいという趣旨であります。

以上,「甲奴・三次線」公共交通導入試験運行の結果並びに今後の方針(案)について,ご説明させていただきました。よろしくお願いいたします。

(会長)

今,事務局から「甲奴・三次線」の4ヶ月間の結果並びに今後の方針ということでご説明させていただきました。

それでは,ここで,中国バスの課長さんから補足なり,また先ほどの運賃について説明できますか。

(中国バス)

**別紙資料3**の運賃設定についてご説明させていただきます。当該路線の利用者の方の声として,「甲山・三次線」とこの路線との運賃が異なることが問題として挙がっていました。今回の経路変更により,吉舎・三良坂町域では同一となり「甲山・三次線」にあわせられることになり,利用者の混乱を回避できるものであると思っております。

この資料の表の中で赤い数字で記載されているところが,「甲山・三次線」と「甲奴・三次線」の

運賃が異なり、二重運賃となっている区間です。先ほどもお話ししましたが、この区間の二重運賃が解消できることにより、分かりやすい運賃体系ができることとなります。

実際の運賃はこの表の2段目の部分となります。また、印の部分は「甲奴・三次線」と調整をかけております。

(会長)

ありがとうございました。つづいてJR西日本広島支社企画課長代理様からJRの考え方等についてご意見を頂戴できますでしょうか。

(JR)

事務局からこの路線バスのダイヤ改正についてご協議を頂戴したわけではありますが、鉄道とバスとの総合的な交通体系を整えて提案いただいたところです。利用状況についても時間帯によっては差が見られるということでした。

弊社としては今回提案されたダイヤについても、JRダイヤと極力競合をさけるように設定されておりますので、弊社としては支障ないと思っておりますが、今後のこの路線の利用状況や弊社の利用状況等を勘案させていただいて、また提案させていただくことになろうかと思っております。

現行の路線変更やダイヤ変更に係るものについては、特段、支障はないことで対応させていただこうと思っております。

(会長)

ありがとうございました。ただ今、中国バスからは変更運賃の関係、またJR西日本広島支社からは変更ダイヤに関する考え方等の意見を頂戴しました。さらには事務局からこの路線変更に係る全体的な説明をさせていただきました。

このことについて、委員の皆様から不明な点も含めて、ご質問、ご意見がありますでしょうか。

(委員)

JRダイヤについては、10月の改正があるのではないですか。このことを想定されて時間を設定されていますか。

(事務局)

確かに春と秋にはダイヤ改正が行われています。また、沿線での安全運行のための工事等によって変更がなされています。

これらの変更事項については、以前も事前にお話をいただいております。

今回の該当路線のダイヤについては、なるべく各列車の時刻の中間に設定しておりますので、今までのダイヤ改正にみられるように若干の時刻変更には、影響しないものと考えています。

ただ大幅な時間の見直しが行われることになれば、このバスダイヤもそれに対応する見直しが必要になってくようかと思っておりますが、提案している内容は支障がないと判断しています。

(委員)

高校生の利用がないことなどから、この路線開設の当初の目的がずれてきているように感じます。

大きな目的は、甲奴町域から三次市街地への移動であり、途中についてはクローズで運行するような検討もしてきたところですが、なぜかという点で既存路線への影響を考えてのことでありました。現在の運行状況では、この既存の補助路線への影響はどうなのでしょう。

(事務局)

ご指摘のとおり、当初は高校生の通学、また自ら移動手段を持たない高齢の方を中心とした通院等の利用を想定しておりましたが、実態では通学利用がないことが実証運行で明らかになり、今回の変更について提案させていただいています。

そもそも、この路線については、以前の協議でもご意見を頂戴しましたようにJRとあわせて甲奴町域等の交通手段の利便性の向上をめざして開設、試験運行しているものです。あくまでも、利用者の分散といったことではなく、新たな公共交通利用者の発掘、取り込みといったことを目的としたものです。

この間の検証ではありますが、私どもが分析しているところでは高校への通学での利用がない状況等からJRへの影響はほとんど見られないと考えています。

(委員)

既存路線への影響はいかがだったのでしょうか。今回も吉舎、三良坂町域では2本増えるわけですが、それでもいかがでしょうか。影響がでないためにもクローズにする手法もあると思いますが。

(事務局)

今回の提案につきましては、アンケートや市政懇談会等の中で、ご意見があったものを踏まえ、既存の「甲山・三次線」と極力競合しないように設定しております。

影響が全くないかとなると、若干の影響は想定されますが、そのこと以上に、新たな公共交通利用者の発掘、沿線地域の利便性の向上が主眼でありますので、ご理解いただきたいと思っております。

(委員)

運行事業者である中国バスはどのように考えておられますか。

(中国バス)

当初、懸念されていたこととして既存の「甲山・三次線」から利用者が流れることがありましたが、今年実施しました乗降調査等においても、今の路線、時間にお客様がついておられますので、さほど影響は見られなかったと分析しています。

このたびの変更についても、既存路線への影響よりは、先ほどからお話がありますように、沿線地域の方の利便性の向上により、公共交通機関利用への啓発が促されるのではないかと期待しているところです。

(委員)

「甲奴・三次線」については、色々のご尽力いただいておりますことに感謝します。もう少し高校生が利用してくれると思ったのですが、アンケートを見てもわかるように、どうしても運賃に差が出ています。保護者の負担が増えることが大きなネックで利用が伸びていないと。

この運賃の差を市からの通学補助といったことで支援いただけるようなお考えはないですか。

また、引き続き試験運行ということで今回、色々と考えられて提案されていますが、どうか多くの方が利用されるようになればいいと思っていますし、私もPRに努めていきたいと思います。

(事務局)

委員におかれましては、地域で啓発にご尽力いただいておりますことに感謝いたします。

生徒への支援とお話がありましたが、現在においてそのような制度はございませんし、これからも高校への通学となると色んなケースがあり、かなり広範囲になってきますので、困難ではないかと思われれます。

(委員)

この資料を見ますと1日あたり、8.5人から10人あたりが利用されていることとなります。4便運行していますので、実人数で言うと2.0人以上が利用されている計算になり、そこそこ乗っておられるのかなど。しかし平均乗車密度となると甲奴からの利用者が多くなくては2.0人をクリアすることは難しいのではないかと想定されます。

また、利用者の状況見ると日によってバラツキが見られます。10人ぐらい乗られている日もあれば、ほとんど利用がない日もあります。また、往復での利用であるとか、甲奴町域では、路線沿線地域以外の方の利用はどうかといったことについて何か分析されていることがありますか。

(事務局)

まだ詳細な中身については、分析していませんが多くの方が通院目的で利用されていると考えています。

中央病院はもちろんのこと、沿線の眼科であったり、皮膚科であったりと個人医院への受診等で利用されています。

また、エコ対策として行政機関の職員等が月の何日かを利用しているようなことがございます。

(中国バス)

補足として、雨の日には市街地近郊で多く乗車いただいています。

(委員)

先ほど委員からも運賃について意見がありましたが、試験運行中なので運賃についても工夫ができないものだろうかと思います。往復運賃の場合、片道分はいくらか割引するとか。帰り便も利用されるようであれば一方の運賃をJR運賃に合わせるだとか考えられないかと思えます。

もうひとつ、今回、通学利用がないことから利用者としての想定を外したということですが、運行

経路についても、通院を重視するのであれば、既存の「甲山・三次線」と同様に、中央病院から三次駅といった経路も考えられるのではないかと。そうすると吉舎や三良坂の方に経路について混乱しなくても済むのではないかと考えられます。

（事務局）

試験運行中なので、運賃に工夫があればとのご意見ですが、あくまでも本運行をめざして現在、試験運行を行っています。試験運行中に運賃を安くして、本運行では運賃を当たり前に戻すとすると利用者数に影響することが考えられます。そうすると試験運行を行う意味合いが薄れてくるのではないかと懸念いたします。

また、経路の関係であります。現在、三次高校前を運行している路線は少なく、備北交通も色々の理由で現在はバイパスに経路を変更されています。この路線が中央病院へ先に乗入れる系統をとれば、この地域の方のバス利用にかなりの制限がかかってこようかと思えます。

先ほど質問にあった乗降者の分析にもかかっていますが、朝便が通学に利用されないのに、三次高校近辺での降車が多く見られます。これは、以前、私も乗車した時に眼科や整形外科等の民間の開業医に通院するため、利用されているケースを見ました。そういった需要もかなりあるかと思えますし、また、この路線と既存路線を同一の系統とすることは競合といったことにもかかってこようかと思えます。

この2路線の経路が利用者にとって、生活パターンで使い分けできる利点もあり、利便性の向上が図れ、公共交通機関を多く利用いただけるものと期待しております。

（委員）

現在の試験運行では、土日・祝日は運休となっておりますが、先ほどお話のあったアンケートには休日等に運行して欲しいような意見はありませんでしたか。

（事務局）

ありませんでした。アンケートに別段、土日の運行に係る設問はなかったので、このような結果となったかもしれませんが、この路線の目的は高齢の方を中心に通院等の日常生活に必要な移動手段と捉えておりますので、休診となる土日・祝日は運行を行う予定にはしていません。

（会長）

色々貴重なご意見を頂戴いたしました。今回の提案は半年間の結果をもとに一部変更をし、引き続き、次なる試験運行を行いたいとするものです。現在も試行錯誤しながらの運行であります。どうかも半年、事務局の提案どおり試験運行させていただいてもよろしいですか。

（委員）

了承。



(会長)

この件については、三次市地域公共交通会議の合意がなされたものとします。

引き続き、半年間の試験運行を行うこととなりますが、利用状況などの資料をまた、この交通会議にお示しし、本運行をどうするかといったこともこの交通会議を通して、行政としてどう判断するか年度末には協議いただくこととなります。委員の皆さまには、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、(2)の「三次市地域公共交通総合連携計画策定調査委託業務について」を議題とします。

(事務局)

別紙資料5をご覧くださいませでしょうか。

アとして「調査の目的とフロー(案)について」であります。三次市では、人口減少・高齢化の急進、路線バス利用者の減少に伴う路線合理化の危惧、不効率なバス路線の存在、市町村合併に伴う経費補填の増大など、生活交通に関して多くの課題を抱えていることは委員の皆さまもご承知のところでは。

そのため、本市では、「新市生活交通体系計画総合ビジョン」、「三次市生活交通体系実施計画」、「三次市生活交通中期プラン」を策定しており、この計画により、市民のよりよい生活交通環境づくりを行っているところであります。

さらに今後も、安心・快適に暮らせる地域であり続けるためには、現在の生活交通環境を一層向上させるとともに、長期に渡り持続させることが非常に重要になってきます。

そのためには、実態を詳しく捉えて分析することで市民ニーズに合ったサービスを提供すること、かつ無駄の少ない持続可能な公共交通システムを構築することが必要といえます。

以上を踏まえ、本調査では、三次市の将来を見据えた、効率的かつ持続可能な生活交通体系の計画である「三次市地域公共交通総合連携計画」を策定するための基礎調査と位置づけています。

続いて、調査フロー(案)であります。別紙資料5の2ページに図を掲載しています。

まずは、「地域現況や市民ニーズの把握」であります。人口、経済指標や公共・医療施設、公共交通サービスの現況と課題を把握する必要があります。これを各種計画と照らし合わせます。

さらに市民の交通に関するニーズを詳細に把握するため、市民へのアンケート調査や地域の方、交通事業者、その他の関連施設へヒアリングを実施する予定です。

この調査で明らかになった現在での問題点やニーズを整理し、各種計画を基に「具体的な交通施策の検討」を行います。この検討とは、現況の地域公共交通の課題を整理し、今後も持続的、有効的に運行できる生活交通体系のあり方、具体案を提案していくことになろうかと思ひます。もちろん、この中身にはJRや路線バスといった各交通モードの結節、時間であったり、待合場所であったり、さらには、高齢者等が乗り降りしやすい低床車両の導入等について検討することとなります。

こういった検討事項に沿った実証運行などを平成22年度から実施していく計画であります。

また、現況は、バス路線については、とてもわかりづらい表示等が見受けられますが、こういったCIデザインにも配慮していきたいと考えています。

以上のことを、この交通会議において検証・決定していただき、「三次市地域公共交通総合連携計画」をまとめていきたいと考えています。

イ の調査の具体的な進め方及びスケジュール(案)につきましては、今回この業務を委託しております「(株)地域未来研究所中国四国事務所」から説明させていただきます。

それでは、具体的な調査の進め方について、ご説明します。

調査全体の流れとしましては、最初に現状をしっかりと押さえ、それを踏まえて問題点を明確にし、それらに対応するための施策について検討したいと考えています。そして、来年度からの実証運行に向けて計画づくりを進めていく予定です。

まず、現状を把握するために、人口や経済動向などの統計指標や、現在運行している路線バスや市民バスなどの公共交通サービスについて整理します。また三次市では、総合計画や公共交通に関わる各種計画を策定されているため、これらの内容についても整理し、今回策定する総合連携計画との整合を図ります。

また、計画づくりに際しては、市民やバス利用者の意見やご要望を反映することが必要です。そこで、市民の方を対象としたアンケート調査、市民バスや路線バスなどの公共交通を利用されている方を対象としたアンケート調査を実施する予定です。アンケート調査方法の詳細については、後ほど別紙資料6で、ご説明いたします。

また、公共交通に関連する機関、例えば交通事業者や行政機関、医療機関、商業施設などの日頃バス利用者として接する機会のある方々を対象に、現在の課題点や利用者の行動パターンなどについてお聞きするヒアリング調査を実施することも予定しています。

以上のような作業を経て、現況の問題点や課題を整理し、具体的な交通施策を検討することになるのですが、その前に、まず公共交通体系の整備コンセプトを決めることを提案しております。公共交通には多くの主体が関わっており、そういった方々が1つの方向へ向かうために、模式図やキャッチコピーといった分かりやすい共通のコンセプトを策定してはどうかという提案です。

例えば、過年度策定された三次市生活交通体系実施計画では、「みんなで創る 便利でふれあいのある 地域(ふるさと)の交通」、三次市生活交通中期プランでは「みんなで創る 便利で夢ある 地域(ふるさと)の交通」というキャッチコピーが設定されております。これを見ただけで、三次市が住民と一緒に、地域(ふるさと)を大事にしながらか計画を考えている姿勢が伝わるのではないかと思います。そのため、これらの姿勢を十分活かしながら、連携計画のコンセプトづくりを行いたいと考えております。

続いて、三次市における交通課題を整理します。資料では、現時点で想定できる課題を、次のように挙げています。

- ア) 市民バスの乗車密度 1.0 (人/便) 未満の路線が存在しているため、見直しが必要です。
- イ) 路線バスの乗車密度が 2.0 (人/便) 未満の路線が存在しているため、見直しが必要です。
- ウ) 交通空白地帯について、対応が必要です。
- エ) 三次ウェーブ号の利用者が少ないため、利用ニーズにあった運行へ改善することが必要です。
- オ) 利用組合の運営事務などの負担から、組合数が減少しています。そのため、継続しやすい運営システムの見直しが必要です。
- カ) 旧町村から三次中心市街地へ便利に移動できる環境を整えるために、交通機関同士の連絡性向

上が必要です。

キ)高齢者が乗りやすいような車両の導入などが必要で

す。なお、以上の課題は、あくまでの現時点で想定できる内容であり、アンケートやヒアリング調査の結果如何で、内容の変更や追加がある可能性があります。

引き続き、このような課題に対して、具体的な対応策を検討します。資料では、現時点で考えられる対応策や、検討方法を整理しています。順にご説明いたします。

ア)市民バスに関する対策としては、再編や部分デマンド化などが考えられます。具体的な検討方法としては、アンケート結果や利用実態を踏まえて見直し対象路線を設定し、効率化の観点から具体的な再編方法を検討する予定です。持続可能な市民バスのあり方の検討が目的です。

イ)路線バスにおける対策に関しても、市民バスと同様に、まずアンケート結果や利用実態を整理し、見直し対象路線を設定します。その中で、乗車密度が低い路線については減便や廃止等の方向性を検討してはどうかと考えています。これについては、交通事業者のご意見を踏まえながら一緒に検討できればと考えています。

ウ)交通空白の地帯に対応する1つのサービスとして、自家用有償運行が考えられるのではないかとこの提案です。住民ニーズを踏まえた上で、出来るだけ低コストの新しいサービスの導入可能性を検討したいと思います。具体的には、作木町の岡三淵地区において、過去に自家用有償運行の社会実験が実施されています。そのため、このサービスを実際に利用された方々にヒアリングを行うなどにより、実現の可能性等について検討したいと考えています。

エ)三次ウェーブ号については、利用しやすいダイヤやルート等を検討するために、プロジェクトチームを結成することを考えています。交通事業者、商工会議所や運行地域の方などをメンバーとして想定しています。その中で運行計画を検討し、次年度の実証運行を目指したいと考えています。

オ)市民タクシーは、利用組合の事務の省力化について検討します。そのため、現在利用組合で頑張っておられる方に、問題点や課題、改善策などについてヒアリングしたいと考えています。

カ)JRや路線バスと市民バスとの結節点の利便性を高める施策を検討する予定です。具体的には、アンケート結果や現地調査などを踏まえて、対象となる箇所を設定し、施策を検討します。その際の内容はハード・ソフト両面から考えたいと思います。

キ)現在、三次市では車両の補助ステップ整備への補助を実施されており、このような制度を活用しながら、新規車両の導入や既存車両の改良の方向性を検討します。

以上が、公共交通の運行に関する施策の検討です。引き続き、公共交通の利用促進策についてご説明します。

7ページの(3)はじめは実証運行計画の策定です。これは、バス再編等を実際に行うことで、目に見える形で利用者を増やすために、実証運行の計画をつくるというものです。

続いて、情報提供手段の検討です。具体的には、現在、市内全域で統一された市民バスの時刻表や路線図が存在しないため、これを作成することを考えています。具体的には、アンケート調査の際に時刻表を配布し、市民の意見を聞くことや、各地域で実施する調整会議などでも意見を聞くことで、市民と一緒に時刻表づくりを行いたいと考えています。

これまで述べたような施策や利用促進策を踏まえて、総合連携計画の取りまとめを行う予定です。

現在、8月末でございまして、現況・課題の整理の途中まで来ております。今後、市民ニーズの把

握ということで早急にアンケート調査・ヒアリング調査を実施して整理していきたいと考えております。具体的な交通施策については、皆さまにご協力をいただきながら進めたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

また総合連携計画のたたき台を年内～年始に作成し、3月の年度末には成果品を作成するような流れを考えております。

**別紙資料6**になりますが、先程述べたとおり、市民アンケート、公共交通利用者アンケート、交通事業者および関係機関へのヒアリング調査を実施します。

特にアンケート調査の具体的な方法は、次のような内容を考えております。

1) 市民アンケート調査は、市内6,000人を対象に郵送配布、郵送回収を予定しています。

2) 利用者アンケート調査では、市民バス、デマンドバス、市民タクシー、路線バスの利用者へアンケートを配布し、記入していただくこととなります。

市民バス利用者へは、市にご協力をいただき、直接バス利用者へ手渡し配布する予定です。

デマンドバスについては、利用登録者約600人に郵送配布することを考えていましたが、話を聞きますと実際の利用者はこれよりも少ないようです。そのため、出来れば実際に利用されている方をターゲットに配布したいと考えております。

市民タクシーについては、利用組合に協力をいただきながら、実際に利用されている方に配布したいと考えております。

また路線バスについては、三次駅前・三次中央病院において、路線バスを降車される方に手渡し配布する予定です。

次にアンケート調査でお尋ねする内容について説明します。最初に個人属性や普段の交通環境、移動のパターンをお聞きします。特に利用者アンケートでは実際に利用した移動手段の利用パターンについて設問します。また普段の公共交通の利用有無や満足度、公共交通の整備のあり方などを質問する予定です。さらに調査票と合わせて時刻表・路線図も配布するため、これについてもご意見等をお聞きし、デザイン作りの参考にしたいと考えています。

調査のスケジュールは、9月中にアンケートを配布し、10月には回収に取りかかりたいと思っています。非常にタイトなスケジュールの中で実施することとなります。どうぞよろしくお願いいたします。

**別紙資料7**、**参考資料**については、今回は特にご説明いたしません。もしご意見等があれば、お聞かせ頂きたいと思っております。以上です。

(会長)

ありがとうございました。ただ今、事務局とこの調査業務の委託事業者である地域未来研究所から今後の調査について詳しく説明いただいたところであります。

それでは、委員の皆さまからご意見、ご質問を頂戴したいと思います。

(委員)

アンケート用紙であります。配布対象が65以上の方が中心となっておりますので、文字の大きさについて、配慮されたいと思っております。

また、用紙には市民バス 線用といった記載がありますが、地域によってアンケート調査票が違  
うと理解していいですか。個々の内容については、いいと思います。

(事務局)

ご指摘のように高齢者の方に見やすいように工夫したいと思います。

また、地域毎に調査票が違うのかという質問ですが、調査の内容に行き先等尋ねる箇所がございま  
すが、このことについては、各地域でそれぞれの主要な施設を掲載していますし、現行の各地域の路  
線図も添付するように考えています。

(委員)

現在、中央病院などへ自家用車で来られる高齢者の方等について、いかに公共交通機関をご利用い  
ただけるかといった設問は考えられないですか。

(事務局)

確かに高齢者の方の事故が多いとお聞きしています。中央病院への通院で来られた方を対象にする  
のは難しい面もありますので、市民アンケートの中に設問できないか検討させていただきます。

(会長)

資料は事前にお配りしていますが、何せ内容が多いものですから、もし、後日、お気づきなどがあ  
りましたら、事務局の方まで連絡くださればと思います。

ただ、アンケート等の準備のこともありますので、なるべく早くお願いできればと思います。

(委員)

市民タクシーのアンケートの内容に利用組合設立時の課題等をお聞きできるようにしていただき  
たいと思います。

私どもの地域でも大変苦労した経緯がございますので。

(事務局)

市民タクシーについては、該当地域が限られていますので、直接、利用組合に出かけて行き、そこ  
らについて聞かせていただくと考えています。

(委員)

先ほども意見がございましたが、広島県においては、高齢者の方が絡んだ交通事故が多発していま  
すので、今、現在、運転免許をお持ちの高齢者の方の意見を聞くのも必要かなと思います。

また、最近、特に世間で言われている「京都議定書」に基づく環境政策であります。公共交通機関  
を利用するといったことは、このことに大きく貢献できるものと考えています。この点からもアンケ  
ートを利用して啓発が必要ではと考えます。

(事務局)

今、ご指摘いただきました点はとても重要なことだと考えておりました、今回のアンケート(マップ)にも、できるだけ公共交通機関を利用しようというメッセージを入れております。

ただ、今回のアンケートの設問で、このことに関しての意識調査については、検討が必要であると思っています。専門であるコンサルとのよく相談してみます。

(会長)

色々ご意見を頂戴しました。ご指摘の件は、事務局と受託事業者等とよく検討してまいりたいと思いますので、以上のことについては、よろしいですか。

(委員)

了承。

(会長)

ありがとうございました。それでは、最後になりますが、その他について事務局より説明願います。

(事務局)

本日お配りいたしました、[資料8](#)をごらんください。

先日、安芸高田市から、高宮町川根地区で10月から実施する市町村運営有償運行の開設に関しての協議依頼がありました。

1枚めくっていただきまして、運行図をご覧ください。緑の部分が今回導入する川根地域であります。

いくつかの路線が黒線で記載してありますが、赤でマーカーしている路線「運行1 川根定期便」及び「運行4 のもやい便」の中で、路線の右の部分が江の川を越えて作木町へ運行を予定されています。運行主体は「川根振興協議会」とお聞きしております。

川根地区の住民の方は、市域を越えて生活圏域が作木町にある方がおられるため、JR香淀駅、作木診療所へ乗り入りたいとされているものです。この交通の運行形態はデマンド方式を採用しており、予約がないと走らないものであり、作木町の路線沿線地域の方の利用はできません。車両については、8人乗りのワンボックス若しくは乗用車を予定しておられます。

この市町村運営有償運送につきましては、乗入れる地域の交通会議の了解を得て路線開設申請を行うものであるため、今回、このような協議の申し入れがなされました。

他市の生活交通に関することではありますが、住民の日常における生活上必要な移動目的地が今回は、作木町にあることによるものですので、この協議に対しては、承諾することと考えておりますが、委員の皆さまのご協議をお願いしたいと思います。

(会長)

ありがとうございました。

安芸高田市高宮町川根地区の振興協議会の地域交通を自ら取組みを行ううえで、生活圏域である作

木町の駅や診療所に運行を行いたい,そこで本市の交通会議の了承が必要とするものと理解いたしました。

今の事務局からの説明に対して,何かご意見がありますか。

市町間の境界は存在しても,そこに住む住民の生活権には境界は存在しないし,また,これから本市の交通体系においても,近隣市町にお願いすることもあるかと思えます。

またこの取組みが軌道にのって,うまく運営できることになれば,本市としても参考になる事案であると思えます。

以上のことから,この協議については,合意することとしてよろしいですか。

(委員)

了承。

(会長)

以上で,本日予定しておりました全ての協議事項が終了しました。

皆さま方には,長時間ご協議いただきまして,誠にありがとうございます。

また,株式会社中国バス,ＪＲ様には,ご無理をお願いし,ご参加いただきましたことに感謝申し上げます。

なにとぞ,引き続き,三次市の公共交通についてご尽力,賜りますよう重ねてお願いいたします。

皆さま,どうもありがとうございました。どうか,お気をつけてお帰りください。